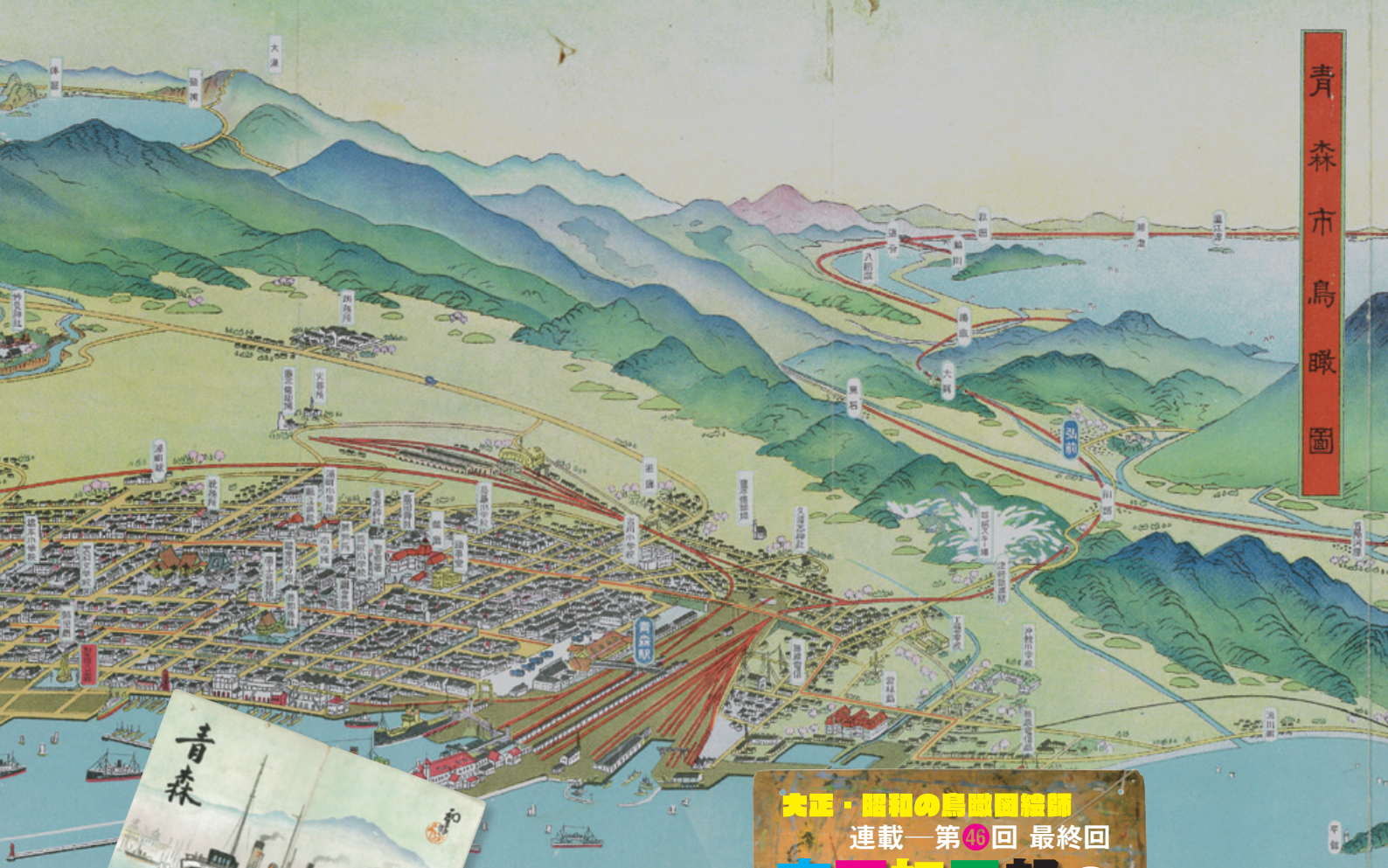




大正・昭和の鳥瞰図絵師
連載—第46回 最終回—
吉田初三郎の世界

『青森 [青森市鳥瞰図]』

(昭和7 (1932) 年12月5日発行)

青森市役所 発行

京都市 清水超太郎 編輯者

京都市八條通東洞院東入 観光社出版部 (和多田興太郎) 印刷



青森

青森市鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

青い森鉄道は、東北新幹線開業に伴い、旧JR東北本線の青森県部分が分離された並行在来線で、目時―青森の青森県区間を運行している。

全線で一二・九km、二十七駅を有する第三セクター鉄道で、地域の基幹的交通機関の役割を果たすことを使命として誕生した。

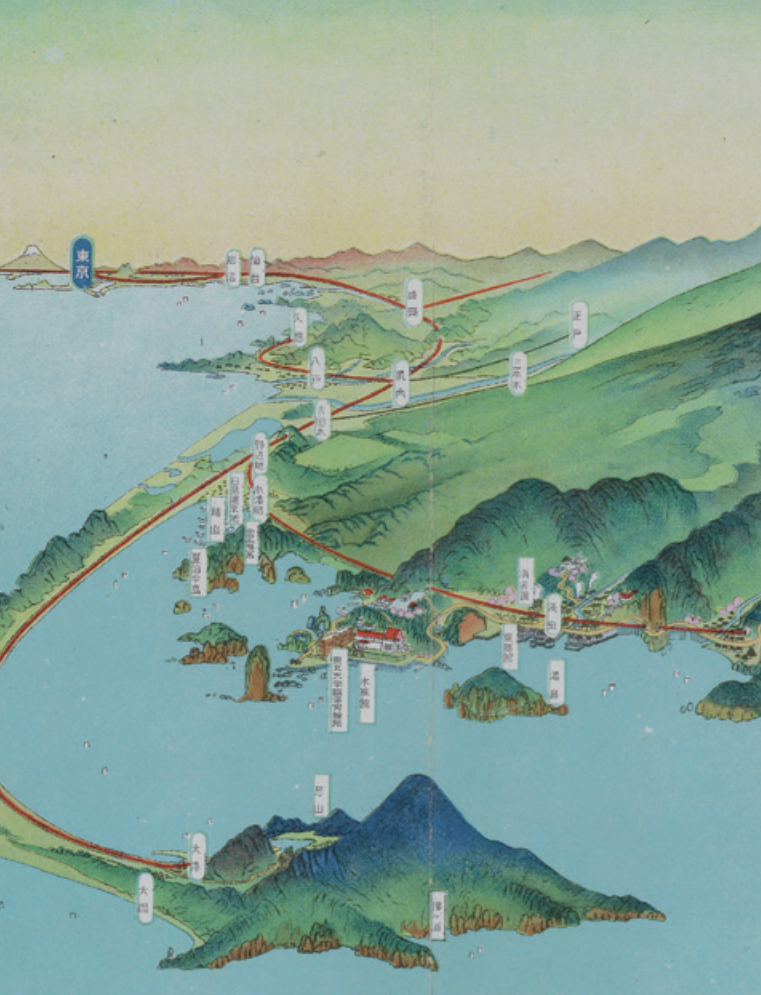
開業以来、「愛される鉄道」「地域住民の重要な鉄道」「地域の皆様とともに歩む鉄道」の理念に基づき事業の推進に取り組んでいる。

平成十四年十二月一日に目時―八戸間が、平成二十二年十二月四日に八戸―青森間が開業。路線の運営は「上下分離方式」を採用し、線路や駅舎といった鉄道施設(「下」に該当)は、青森県が第三種鉄道事業者として保有、青い森鉄道株式会社は第二種鉄道事業者として車両(「上」に該当)を保有し、運行している。

沿線には、浅虫温泉郷やおがわら湖温泉郷など癒しのスポット、また歴史的風情を残す三戸、下北半島へ

藤本一美

元首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』(私家版2006年)、最新刊に『展望の山50選 関東編』(東京新聞出版局)がある。



平成19年夏号（Vol. 23）より連載を開始しました「吉田初三郎の世界」は今号をもって終了いたします。大正・昭和の時代に活躍、生涯において2000点以上の鳥瞰図を作成し、「大正広重」とも呼ばれた吉田初三郎の鳥瞰図とともに、46社の鉄道事業者を紹介してまいりました。長い間、ご愛読いただきありがとうございます。

地域の生活を支え、 風情あふれる青森の旅へと誘う。

青い森鉄道は、東北新幹線開業に伴い、旧 JR 東北本線の青森県部分が経営分離された並行在来線で、青森県区間（目時～青森）を運行している。岩手県区間は IGR いわて銀河鉄道が運営し、相互直通運転を行っている。また、野辺地駅で接続する JR 大湊線と一部直通運転も行っている。

地域の生活基盤を支える鉄道として旅客輸送に取り組む青い森鉄道だが、沿線には、陸奥湾の眺めが美しい浅虫温泉や青森湾を望む本州最北端の水族館である浅虫水族館、桜の名所としても名高い三戸城址の城山公園などがあり、その存在は観光の足としても欠かせない。平成21年からは、電車をモチーフにしたデザインのロゴマークを使用し、イメージキャラクターに青色の木の「モーリー」を採用するなど、地域の観光振興にも貢献している。

青い森鉄道株式会社 AOIMORI RAILWAY Co., Ltd

設立：平成13年5月30日
本社：青森市篠田1-6-2



青い森鉄道株式会社



のアクセスも便利な野辺地^{ノヘジ}では珍しい鉄道防雪林（杉林）の景観も観察できるのだ。

本図の初三郎鳥瞰図作品が誕生したのは昭和七年、国有鉄道時代のことだから、青森周辺は昭和四十三年にルート変更になる前の東北本線が記載。青森県庁舎は、明治十五年に建てられた洋風建築だったが、青森空襲で焼失してしまった（立体絵図表示）。なつかしい青函連絡船の航路も。

駅名で改称されたのは、古間^{ふるまき}本駅は現・三沢駅。尻内^{しりうち}駅は現・八戸駅。八戸駅は現・本八戸駅に。浅虫^{あさむし}駅は現・浅虫温泉駅に。旧水族館も存在しているのは嬉しい限り。

本図の構図の特徴は、北側の津軽海峡上空から見下ろした景観で、青森市街地が津軽と下北の両半島の間大きくせり出している。背景の八甲田連峰と津軽富士の岩木山の姿が雄大だ。

図隔左隅には、ちゃっかり富士のお山と双耳峰の筑波山を入れている。